

日本のコンピュータ黎明期を牽引したリレー式計算機

登録番号	第 00241 号		
登録年月日	平成30年8月28日	登録区分	第一種

名称 (型式等)	FACOM128Bおよび関連資料
所在地	静岡県沼津市
	富士通株式会社
所有者 (管理者)	富士通株式会社
製作者(社)	富士通信機製造株式会社（現：富士通株式会社）
製作年	1959年
初出年	1958年
選定理由	論理素子にリレー（電磁石で断続するスイッチ）を用いたコンピュータである。自己検査機能・リトライ機能が導入されるなど、高い信頼性の商用機として、国産旅客機YS-11やカメラのレンズの設計に使われ、日本の高度成長期の計算需要に応えた。稼働可能な状態のFACOM128Bが、設計・製造・保守・運用に関わる資料とともに保存されている。また、派生機種のFACOM138Aについても動態保存されている。日本のコンピュータ技術の歩みを示すものとして重要である。
登録基準	二ーロ（日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	※FACOM138Aは川崎工場で稼働可能な状態で保存されている。